

平成28年2月29日(月)

老球の細道 216

## 2月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

こんなに雪の少ない2月は今までなかった。小学生の頃、多いときには家の二階から入りしたこともあった。今年はまだ1回も雪かきをしていない。腰痛には願ってもなかったが、油断大敵、調子に乗りすぎてトレーニングを強化したら腰痛が再発。長い時間かけて悪くしてきた腰、長い時間かけて治すしかないのだろうか。人生は山あり腰痛あり。

### 1・読書から

#### ◆「強い人は弱い人が相手でないとき最も強い」〈内村鑑三著『代表的日本人』〉

西郷隆盛を評して言わしめた言葉である。西郷は人を相手にしないで天を相手にした。人をとがめないで自分の誠意の不足をかえりみたという。弱きを助け強きをくじく。バスケットボールにおいてもこのようなスタンスが番狂わせを起こす。

#### ◆「いろいろな不都合、いろいろな反対に打ち勝つことがわれわれの大事業ではないかと思えます」〈内村鑑三著『後世への最大遺物』〉

お金、物、思想など残せない人は「高尚なる勇ましい生涯」を後世に残すことができる。そのような生き方とは困難の選択(ハーキュリー・チョイス)。不都合、反対をよしとすることだ。

### 2・新聞等のコラムから

#### ◆「細く、長く、曲ることなく、いつも くすくす くすぶって あまねく 広く 世の中へ」〈朝日新聞・折々の言葉〉

京都のお香の老舗に伝わる家訓。冴えなくとも輝いていなくてもいい。目につかないところで曲ったことをしないで線香のように地味に守れば人様のお役に立てる。このような高い志で線香を作る店がある。仏壇に線香を上げるとき、さらに厳粛な気持ちになる。

#### ◆「同じことを繰り返しながら、違う結果を求めるのは狂気の沙汰だ。成長するためには、何かを変えないといけない」〈朝日新聞：ラグビー日本代表元HCエディ・ジョーンズ〉

来年度の色々なクリニックのプランを考えている。昨年と違うことにチャレンジすることで成長したいと願う。また同じことを繰り返すことによって、不徹底だったことを確実にもしたい。その時は微妙にバリエーションを加えながら。

#### ◆「試合前に大の字になって寝て、幽体離脱するように自分を上にあげる。できれば宇宙まで上げる。そうすればちっぽげな自分が見える。地球ではあらゆるところで戦争が起きている。自分はこんな小さなリンクで悩んでいる。自らを俯瞰的に見ることで、プレッシャーから解放されるんです」〈朝日新聞：スピードスケート金メダリスト・清水宏保〉

プレッシャーは向上心のある人にとっては必需品。準備不足のためにプレッシャーが大きくのしかかる。周到な準備をして、自分より大変な状況にある人のことを思い浮かべる。

### 3・バスケットボール各種クリニックのレジメに挿入した言葉から

#### ◆「人間の違いとは、あたりまえにやっているやつと、必死になってやっているやつとの差である」〈尾関宗園『あんたが1番なんや』〉

最近必死になってやっている人が少なくなっているような気がする。その前に私自身が必死になってやっているのかと自責の念にかられている。ありあまる時間がもったいない。